

経済学寺子屋『教えるための経済学入門』

はじめに　なぜこの講座が必要となっているのか

この講座は、中学高校で経済を教えている社会科、公民科の先生、およびそれらの先生になろうとする学生諸君のための経済学入門です。

経済に関する学習は、中学校公民的分野、高等学校「現代社会」および「政治・経済」で行われています。それを教える先生方は、社会科、公民科の免許状をもっています。ところが社会科、公民科の免許状を獲得するためには、経済学を大学で履修することは必修となっておりません。社会科学分野では、経済学か社会学のどちらかを教職の教養科目として取っていればよいことになっています。したがって、大学で全く経済学を学ばなくても社会科、公民科の先生になれてしまうのです。

社会科、公民科の先生の出身学部でも、経済学部出身者はそれほど多くはありません。したがって、現在教壇にたっている中学、高校の先生方できちんと経済学を学んだ、または経済学に関して基本的な知識や理解を持っている割合はきわめて少ないのです。

教員養成系の大学でも実態は同じです。教科教育の専門家は必ず配置されていますが、教科に関する科目に関連する経済学の専任は東京学芸大学など少数の例外を除いて、各大学1名です。設置されている経済学関連科目の内容も、担当者まかせであり、多くは、マクロ・ミクロの入門を半期2単位行うか、それぞれの担当者の関心がある領域に関する半期講義を行っているだけで、中学高校の教科書や教育内容を踏まえた経済学を展開しているケースはほとんどありません。

このような背景から、経済に関して自信をもって教えられる先生方の数は社会科、公民科の教師の中でも多くないという現実が生じています。また、同じように教職志望の学生でも経済に関しては苦手だという諸君が多くなっています。さらに悪いことに、経済は競争だ、お金儲けだという通俗的なイメージを打ち破るしっかりした経済に関する教育を受けていないこともあり、教育系の学生は経済嫌いが多という現実があり、それが輪をかけて経済嫌いの生徒を生み出すと言う悪循環に陥っている実態もあります。

そこで、この講座では、中高で自信をもって経済分野を教えるために、経済学に関して、最低これだけは必要だと言う内容を示したものです。全体は下に示すように、経済学の本当の入り口の概説ですが、実際に中高の教壇に立っている、もしくは立とうとする先生やそのたまごの学生諸君が、経済を教えるために最低必要な経済学の理論と考え方をまとめたものになっています。

主な内容

- 1 経済学とは何か 経済学の定義と領域／経済の歴史と経済学／経済学の基礎概念（希少性、トレード・オフ、生産可能性曲線と機会費用、選択）
- 2 ミクロ経済学の基礎理論 需要供給の法則の読み方／消費の理論／生産の理論／余剰分析
- 3 市場の失敗 独占と独占的競争／寡占とゲーム理論／公共財／外部効果／情報の非対称性
- 4 マクロ経済学の基礎理論 国民所得／三面等価の理論とその応用／国民所得の決定理論／総需要と総供給／景気変動と景気循環
- 5 財政の考え方 財政の仕組み／財政政策の理論と実際／租税と課税理論／公債／公共選択
- 6 金融の考え方 金融の意味／金融の仕組み／中央銀行の役割／金融政策の理論と実際
- 7 国際経済の基礎理論 貿易の理論／為替の仕組みと理論／国際収支の仕組みと理論／経済発展論
- 8 経済学テストとその解説 ミクロ 30 題、マクロ 30 題の演習、解答・解説

本講座の基本的部分は、2010 年から 12 年におこなった筑波大学大学院教育研究科での経済学演習の集中講義のテキストをもとに行われます。

講義の場を与えてくれた教育研究科と参加してくれた院生諸君に感謝の意を表したいと思います。

なお、テキストは筑波大学での講義メモを文章化したものを準備しています。参加者には順次添付ファイルで送信します。

2016 年 1 月 新井 明
(上智大学非常勤講師)